

津幡の空から

石川県学校生活協同組合

2021・7月号

石川県学校生活協創立 72 年目 健康経営 (健康・清潔・迅速・丁寧・挑戦・学習・笑顔)



6月22日第73回石川県学校生活協『総代会』開催 —新型コロナウイルス禍における組合員対応が大切—

石川県学校生活協同組合理事長 細野祐治

6月22日(火)に石川県学校生活協の第73回総代会を開催しました。開催したと言っても、今回も新型コロナウイルスの感染防止で三密を避けるため、総代を絞っての書面議決(文書での承認)での開催です。実際に出席されたのは議長1名・総代は1名・監査委員1名の3名です。仕方がないとは言え、1年前と同じことを繰り返せざる得ないことは、大変残念なことでした。その時の私の挨拶を簡単に載せたいと思います。

「今日のご出席ありがとうございます。今日6月22日はボウリングの日ですが、石川県学校生活協同組合の日は11月12日です。創立から73年目を迎えることは大変喜ばしいことです。そして、今日の総代会で、2020年度の総括と2021年度の計画の承認をお願いします。

2020年度は600万円弱の赤字でした。しかし、ここ数年の中では一番少ない赤字です。また、コロナ禍での活動で、学生協運動のプラス面とマイナス面は明確に分かってきました。フレッシュや共同購入事業は、外出自粛により売り上げが拡大し、今までにない剰余ができました。一方、指定店の売り上げや保険手数料は減少しました。この2020年度の教訓を2021年度に生かし、黒字に向けた取組をしていかねばなりません。

そこで、皆さんに具体的な3つの提案をします。一つは、**フレッシュ加入・購入**です。二つ目は、**指定店・協力店・提携店の利用**です。もう一つは、生命保険・自動車保険でも学校生活協を利用した団体割引保険の加入です。新しい提案ではありません。今まででもお願いしてきたものです。しかし、まだまだ利用が浸透していない伸びしろのある取り組みです。組合員の皆さんに喜ばれる事業です。どしどしご参加下さい。よろしくお願いします。」

来年度の2022年度の第74回の総代会は、コロナ禍の中ではなく、通常総代会になることを願っています。

石川県学校生活協同組合は、県内の教職員を対象とした職域生協です。学校という職場の中で教職員の生活を共同で守り向上させることを目的に結集した福利厚生組織であり、石川県の教職員の自主福祉活動や消費者運動の拠点になっています。

『ヒュパティア』 北本 豊春

エジプトの地中海沿岸に築かれたアレクサンドリアは壮大な大都市でした。大図書館があり蔵書数は七十万冊を誇りました。新プラトン学派の学士院ムーセイオンには優秀な学者たちが集まりました。ヒュパティアの父テオンが優れた数学者・天文学者として学徒たちを教えていました。女性蔑視の世間でしたがヒュパティアはテオンの娘として幼少期から高等教育を受けました。アテナイやイタリアを旅行して深い知性と教養を身に付けた有能な学者として認められたのです。数学と哲学の教師としてムーセイオンで教壇に立ちました。宗教対立が激化しローマ帝国の威光を背景にする大司教キュリロスが異教徒を弾圧します。文明を嫌う無学で野卑なキリスト教修道士たちは間断なく街を荒らししました。アレクサンドリアの長官から相談を受けていたヒュパティアを修道士たちはキリスト教徒の敵だと曲解します。ムーセイオンに向かうヒュパティアを待ち伏せて馬車から引きずり下ろすと教会に連れ込んで暴虐な手管で殺害します。鋭い貝殻で生きたまま肉を剥ぎ取るという残酷極まるやり口でした。殺害の後四肢を引き裂くとシナロンと言う場所に吊るして火をかけて灰にしてしまいます。神殿・学士院を破壊し図書館の貴重な蔵書を焼き払いました。学者たちはアラブ世界等へと逃亡します。ヒュパティアの死は哲学の死です。哲学にとって氷の時代、思考が停止し思想が閉ざされる中世を予感させる忌まわしい事件でした。

編集後記

キュウリ 奇跡の復活!

「今の心配はキュウリに油虫が大発生して困っています。」と前号で書きましたが、その時は、葉の裏側に黒くて小さなアブラムシがびっしりとついていました。無農薬栽培ですから水で洗い落すことを何度も繰り返すだけの処理をしていました。でも、だんだん縮んでいく葉を見てもうダメかなと半分は諦めていたのですが、連れ合いが「少しずつよみがえってきたよ」と言うので見ると、縮んだ葉の上に新しい葉が出てきてその葉にはアブラムシがついていないので、元気なのです。まだ、実はなっていないのですが、なんとかなりそうで、少しホッとしました。キュウリの生きる力のすごさを今回は知りました。(少し安心している道祐)